

# 日本女子のソコヂカラ

映画にみる 着物手本



A large, bold, white 'X' logo is positioned on the left side of the page, partially overlapping a vertical decorative strip.

[www.cheb.tv/](http://www.cheb.tv/)



A large, bold, white '7' logo is positioned on the right side of the page, partially overlapping a vertical decorative strip.

[sokozikara/](http://sokozikara/)

# 日本女子のソコチカラ x 7

着物の手本、ここにあり。  
最高の7本、そろえました。

着物をもっとも「粋」に着こなしていた時代の、100点満点の女は、いつも銀幕にいました。女侠伝あり、芸者あり、お嬢様あり、不倫あり。身震いするほどカッコいい着物女の艶やかさ。日本女子のソコチカラ、着物の手本、すべて見せます。とくと御覧あれ!

## 01 ツイゴイナーワイゼン Zigeunerweisen



言わずと知れた、鈴木清順の代表作。たくさんの短編小説がもとになった、不思議な幻想譚。古着屋巡りをしている女子には、垂涎ものの世界です。何とも言えない独特の魅力が漂う大楠道代。彼女が百合柄の夏着物を着て、腐った桃を齧るシーンは、ここしか覚えていない人が続出するほど印象的。<鈴木清純の世界観のなかの着物>を楽しむ、ファンク上の鑑賞法です。

1980年/監督:鈴木清順  
出演:原田芳雄、大谷直子、大楠道代、藤田敏八

## 02 刺青 Irezumi



駆け落ちの果てに、男達に騙されて背中に女郎蜘蛛を彫られてしまふ、お艶。その蜘蛛に操られるように、次々に男を殺める彼女の運命は、、演じるは若尾文子。着物を着て、ここまでの官能美が出来る女優は、後にも先にも彼女のみ。世界に誇る日本の宝石。着物も女優も映像も、お手本にするなんて恐ろしい。それでも、一寸の虫にも五分の魂、この映画を心に置いておくくらいは勝手でしょう?と、そういう気持ちで見て下さい。

1966年/角川ヘラルド映画  
監督:増村保造/出演:若尾文子、長谷川明男、山本学

## 03 夜の河 Yoru no Kawa



正統派日本美人女優の山本富士子。演じる女性にはろくけつ染めの着物職人。デザイン、作り、呉服問屋に営業する。着物が出来ていく様子や、お客さんに次々と自分の作品を売りこむシーンは、着物好きにはたまりません。そんなしっかり者の彼女が好きになってしまったのは、病弱な妻を持つ大学教授。内に秘めた恋心が抑えきれなくなってしまった時の、山本富士子の着物官能美!ラストの主人公の心の動きが素晴らしい。やっぱりこれも日本女子必見です。

1956年/角川ヘラルド映画  
監督:吉村公三郎/出演:山本富士子、上原謙、小沢栄

## 04 緋牡丹博徒 Hibotan Bakuto



<カッコいい女やくざ>という設定が斬新だった頃の大ヒット作義理人情に厚く、女気に溢れ、たちまわりも決まる矢野組二代目お竜さんは、言わばくごくせん着物版。主演の藤純子、一世を風靡したのもむべなるかな、途方もない美しさ。見終わってから、袖の着物に博多帯をびしっと合わせてみたくになります。日本の明日を担う女子必見。どこをとってもお手本です。いや、あっぱれお竜さん! 写真は一番一版1968年公開のもので。上映映画と異なります。

1968年/東映  
監督:山下耕作/出演:藤純子、高倉健、若山富三郎

## 05 流れる Nagareru



幸田文の傑作小説を名匠成瀬が映画化。置き屋で繰広げられる女芸者の哀しみ、夢さ、滑稽さをじつとりと描く。杉村春子に岡田茉莉子、山田五十鈴に高峰秀子、着物のお手本女優のオンパレード。俳優が上手すぎて、<ドキュメンタリー?>と思ってしまう程の味わい深さ。着物を脱いだり、着たり、畳んだり、帯を鏡で直したり、日常に着物があった頃のちよとした仕種を、食い入るように見てしまいます。お太鼓のたれを斜にぎゅっと締めた着こなしは、粋すぎてため息もの。この企画はこの映画から生まれました! 原作も映画も着物女子のバイブルです。

1956年/東宝/監督:成瀬巳喜男/出演:山田五十鈴、高峰秀子、杉村春子

## 06 女系家族 Nyokei Kazoku



老舗呉服問屋を舞台に胸爛豪華な三姉妹が遺産相続を巡って、、京マチ子の美しくも欲深い長女ぶっぴり、びしっと決まる着物姿。対張る愛人役が若尾文子とくれば、面白くないわけがありません。不世出の俳優達の名演が、大落ちのラストまで、息もつかせぬスピード感で燃ります。数々のお嬢様着物も、もちろん必見です!

1963年/角川ヘラルド映画  
監督:三隅研次/出演:若尾文子、京マチ子、田宮二郎

## 07 細雪 Sasameyuki



これぞ着物映画の定番!香崎潤一郎の原作を市川崑監督が映画化。ため息がでるような美しい映像に素晴らしい着物が次から次へと、、そしてその着物に勝るとも劣らない女優たち岸恵子に 佐久間良子 吉永小百合 古手川祐子。各々の女優の着物の趣きと着こなしが個性的で、<私だったらどのタイプかしら?>と妄想も楽しいこと請け合いです。ただただ上映時間が流れていく、美に酔う着物映画です。

1983年/東宝/監督:市川崑  
出演:岸 恵子、佐久間良子、吉永小百合、古手川祐子、石坂浩二



## ソコチカラ Information

### 「着物女のソコチカラ」

B5判変型/112P 予価2300円(税別)  
スタイリング 石田節子/豆千代  
インタビュー 若尾文子/東映京都撮影所衣裳部 ほか  
2007年1月下旬発売予定  
ブルース・インターアクションズ刊  
ISBN9784860202132  
お問い合わせ:03-5770-5003

produced by  
**CHEB CAFE**

神保町駅A5出口 徒歩2分。  
三番堂方向 スタバ角曲がる ビル3F。  
03-6312-1356 www.cheb.tv

昔の映画は、いいものは見ても十分におもしろくて、全然古くない。この前、溝口健二監督の映画を久しぶりに見て、なんでもおもしろいだろう。田中絹代さんってなんてすごい人だろうって、あらためて思いました。増村保造監督の映画も、いつ上映しても若い人たちが共鳴できると思います。ハリウッド映画にくらべると日本の古い映画はとっつきにくいかもしれませんが、一度そのよさがわかると、すんなりその世界に入り込むことができる。着物もそれと同じで、一度よさがわかると、これからもこの文化を残していけたらいいな、と自然に感じるようになると思います。

女優 若尾文子

日本の古い映画の中には着物のルーツがあります。着物だけでなく、その時代の女の生き様があります。女がいろいろ、着物もいろいろ、着方もいろいろ、、本当に楽しい!すべてのスタイリングのお手本になるこの作品たち。是非みてほしいです。

着物スタイリスト・衣裳らくや店主 石田節子

あなたの着物ライフに役立つ「着こなし」や「立ち居振舞い」満載の「動ききものファッション誌」。それがこの映画フェスです。

豆千代モダン 豆千代

## 2007年3月3日より底力でレイトショー!

上映時間:21:00~ 鑑賞券[当日1700円](税込)

上映作品 カレンダー ※数字は上記映画NO.と対応しています						3(土)
						04
4(日)	5(月)	6(火)	7(水)	8(木)	9(金)	10(土)
02	03	07	05	06	01	05
11(日)	12(月)	13(火)	14(水)	15(木)	16(金)	
06	07	02	03	04	05	

3月3日ひな祭りトークショー決定! ゲスト豆千代  
初日に着物で御来店のお客様にCHEB CAFE特製<着物SWEETS>プレゼント!





# 01 ZIGEUNERWEISEN

The most famous important work of Seijun Suzuki. Mysterious and fantasy ballade that many short novels became a place. Girls who visit around kimono stores would covet this world. Michiyo Okusu has a peculiar charm which nothing can be said. The scene, which she wears the lily's pattern kimono and bits a old peach, is impressive such as people don't remember any scene except this. Enjoy "The kimono in the world of Suzuki".



# 02 IREZUMI

©角川ヘラルド映画

As if manipulated to the silk spider tattooed on her back, Ayako Wakao kills men one after another. Only Wakao can show such a sensual beauty with wearing kimono. This work is the jewel of proud Japan in the world. Too awesome to copy their kimono, actresses and pictures. However, Won't there be a complaint if this movie is only left in our heart? Please watch this film with such feeling. "Even a worm will turn".



# 03 YORU NO KAWA

©角川ヘラルド映画

The woman whom acted is a batik kimono craftsman. The scenes of state that a kimono made, and selling unrolled fabrics to customers fascinate kimono lovers. She who is such a strong person came to love the professor of the university who had an invalid wife. How great is the sensual beauty of Yamamoto with wearing kimono when the love kept inside finished stopping restraining it. The movement of the heroine's heart at the last scene is wonderful.



# 04 HIBOTAN BAKUTO

一宿一飯 1968年公開 ©東映  
写真は上映映画と異なります

The big hit work when a setup was original as "A cool woman Yakuza". Oryu-san, the second head of Gang Yano, who has full of the woman minds in the sense of duty heart, and cool maneuver, may be compared to "The kimono version of GOKUSEN". Starring Junko Fuji, who dominated the film world, has the extraordinary beauty. Makes you feel like to wear Tsumugi-kimono with Hakata-obi nicely. Exemplary work especially for girls who bear a new generation. Great! Oryu-san.